

2018年1月12日  
公益財団法人イオン環境財団  
東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構  
フューチャー・アース

## 第2回「イオン未来の地球フォーラム」開催

参加者とともに持続可能な社会の実現について考えます

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）と東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（機構長 武内和彦）、及びフューチャー・アース（事務局長 エイミー・リュアーズ）は、1月20日（土）、東京大学大講堂（安田講堂）にて「イオン未来の地球フォーラム」を開催します。

本フォーラムは、5回の開催計画で地球環境の変化やそれに伴って生じる問題の解決方法を考え、実行策を議論するものです。2回目となる今回は「持続可能な消費と生産」をテーマとして開催します。世界中から約5万人の研究者が参加する国際研究プログラムであるフューチャー・アースは、研究の問題設定や計画段階から、研究者だけでなく社会のステークホルダーとともに活動する「超学際研究（トランスディシプリナリー・リサーチ）」の理念を掲げています。パネルディスカッションでは、この理念に沿って、来場者の方々にもご参加いただき、パネリストの専門家とともに議論を深めます。

なお、イオン環境財団は民間団体として世界で初めてフューチャー・アースの本公開フォーラムを主催しています。

かけがえのない美しい地球を次世代の子どもたちへ引き継ぐため、今後も三者は連携して環境教育をはじめとした様々な活動に積極的に取り組んでまいります。

### 記

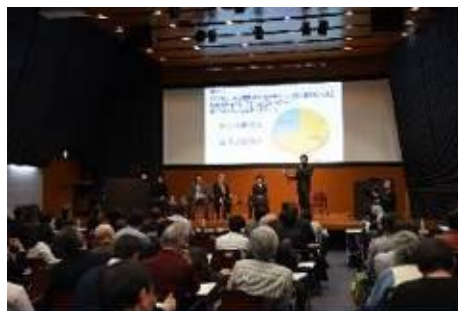
日時 2018年1月20日（土）13:00～17:00  
場所 東京大学 安田講堂（東京都文京区本郷7-3-1）  
主催 公益財団法人イオン環境財団  
東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）  
フューチャー・アース  
後援 文部科学省・環境省・外務省・総合地球環境学研究所・国立環境研究所・  
地球環境戦略研究機関（IGES）  
出席者 公益財団法人イオン環境財団理事長 イオン株式会社名誉会長相談役 岡田 卓也  
東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構長・特任教授 武内 和彦  
募集人数 1,000名  
テーマ いま次世代と語りたい未来のことー持続可能な消費と生産ー  
基調講演 「持続可能な消費と生産を考える」  
慶應義塾大学経済学部 教授 細田 衛士  
「漁業の持続可能性に関する国際機関での取り組み」  
東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 八木 信行  
「イオンにおける持続可能な調達と消費の取り組み」  
イオン株式会社 執行役 環境・社会貢献・PR・IR担当 三宅 香

以上

## 【参考】

### 【第1回イオン未来の地球フォーラム】

2017年2月25日（土）に東京大学浅野キャンパス内の武田ホールにて、「地球と人の健康」をテーマに開催しました。東京大学大気海洋研究所 高萩縁教授による「地球温暖化と雨を考える」、国立研究開発法人海洋研究開発機構 白山義久教授による「健全な海洋生態系を将来に残すために今知っていなければならないこと」、シドニー大学公衆衛生大学院 アンソニー・ケイポン教授による「プラネットアースの健康」の基調講演を受け、会場の参加者の皆さまを交えたパネルディスカッションを行いました。地球温暖化問題や二酸化炭素の排出が、地球の健康に及ぼす影響を確認し、各人が自らできることを議論し理解を深めました。



第1回 イオン未来の地球フォーラム

### 【フューチャー・アース（Future Earth）】

2015年に設立されたフューチャー・アースは、持続可能な地球社会の実現をめざす国際研究プログラムです。「人類が持続可能で公平な地球社会で繁栄する」というビジョンの実現に向け、急激に変動する地球環境の理解、地球規模の持続可能な発展、持続可能な地球社会への転換、という大きなテーマのもと、研究者コミュニティと社会の様々なステークホルダーとの協働により課題解決型の研究を推進しています。

▶フューチャー・アース ホームページ <http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/futureearth/>

### 【東京大学 国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）】

IR3Sは、サステナビリティ学の発展と世界的拠点となることを目指し、2005年に東京大学で初めての分野横断的組織として設立されました。世界に共通する課題と地域に特有の課題の両面の問題解決を目指した研究の成果は、持続型社会へ向けた政策ビジョンの提言などに活かされています。2007年には国際的な学術誌である Sustainability Science を刊行、2012年には国際サステナビリティ学会（ISSS）を設立しました。2013年に東京大学国際高等研究所に編入され、ネットワークのさらなる拡張や、提言の社会実装、研究教育の一層の推進を図っています。また、IR3Sには、5カ国に所在するフューチャー・アースの国際本部事務局のひとつが置かれています。

▶IR3Sホームページ <http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/>

### 【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立。以来、環境活動に取り組む団体への助成・支援、国内外での植樹活動、生物多様性の保全などに貢献した団体・個人への顕彰、環境人材育成のための環境教育を主な事業として、さまざまな環境・社会貢献活動を継続しています。環境教育事業においては、環境分野の人材育成を目的とした「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」や各種環境セミナーの開催、太陽光発電システム寄贈を通じた再生エネルギーの学習機会提供などを各国の教育機関と連携して行っています。

▶公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

### アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。2017年度は、「生物多様性と再生」をテーマに、王立ブノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）の8ヶ国合計64名の学生が参加し、8月1日～6日の期間日本で開催しました。



第6回 ASEP開講式

## 日本ユネスコエコパークネットワークとの連携協定

2017年8月7日、日本ユネスコエコパークネットワーク（会長 前田穰 宮崎県東諸県郡綾町長）と当財団は、“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和を目指し、日本国内のユネスコエコパーク※（生物圏保存地域）における3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）に関し、国内初となる連携協定を締結しました。「生態系の保護・保全のみならず自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に当財団が賛同し、締結するもので、日本国内の管理運営機関である日本ユネスコエコパークネットワークとの連携のもと、ユネスコエコパークのさらなる発展に向けて取り組むものです。

※生物圏保存地域（Biosphere Reserves：BR）により親しみをもってもらうため、2010年1月、日本国内ではBRをユネスコエコパークと呼ぶことが日本ユネスコ国内委員会で正式に決定されました。

## **【イオンと東京大学の取り組み】**

### 給付型奨学金制度「イオンスカラシップ」

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは2006年より、アジア各国の大学生および日本で学ぶアジアの私費留学生を対象とした給付型奨学金制度「イオン スカラシップ」を実施しています。経済的支援の他、日本で学ぶ奨学生を対象としたセミナーの開催やボランティア活動への参加機会の提供などを行い、学生の皆さまの成長を支援しています。日本をはじめ、中国、タイ、ベトナム、インドネシア、カンボジア、ミャンマーの計7カ国35大学と提携し、2017年12月までにのべ5,671名の学生に奨学金を付与しています。東京大学とは同制度の開始当初から給付しています。

### 「アジア ユースリーダーズ」

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、アジア各国の若者たちが一堂に会し、開催国の社会問題をテーマに、視察や専門家によるレクチャーの後、ディスカッションを行うプログラム「アジアユースリーダーズ」を実施しています。異なるバックグラウンドを持つ、インドネシア、タイ、中国、日本、ベトナム、マレーシア6カ国の学生たちが、英語を共通言語として議論を重ね、問題への解決策を模索し、グローバル感覚や互いの価値観を認め合う姿勢を養います。2010年にスタートした同プログラムに、東京大学の学生もこれまで11名参加しています。

### 「東京大学<sup>しよくもん</sup> 稷門賞」受賞

イオン株式会社、および公益財団法人イオンワンパーセントクラブは2016年10月、「東京大学稷門賞」を受賞しました。同賞は、ボランティア活動及び援助等により、同大学の研究活動の発展に大きく貢献した個人・法人・団体に贈呈されるものです。東京大学大学院農学生命科学研究科と協力し、民間レベルでの植物病対策強化と農産物の生産性向上を実現するため、小売業で初めて同研究科の「植物医科学講座」に寄付を行ったことが評価されました。イオンはイオンワンパーセントクラブを通じて、同講座に対し、2011年度から2013年度の3年間にわたり総額9,000万円を寄付しました。

